

第二章 時制

「時制」は、日本人学習者が苦手とする分野です。なぜなら、日本語には「現在」「過去」「未来」という3つの形[意味]しかありませんが、英語には「現在完了形」「未来完了形」「過去完了形」「大過去」「現在完了進行形」「未来完了進行形」…と、あまりに覚えなければならないことが多いからです。

そこで、英語の本質を踏まえつつ、問題として問われやすいポイントを、できる限りわかりやすくまとめてみました。しっかり理解して整理しましょう。

レクチャー1

現在時制と現在進行形。

(1)現在時制の表す意味。

時制で一番厄介なのは、現在時制です。なぜなら

- ①過去時制は「過去の状態」「過去の動作[行為]、習慣」などを表すのみ。
- ②未来時制も、未来に予測される事柄について述べるのみ。

ところが現在時制は、「現在」のことだけをいっているわけではないからです。例文で説明しましょう。

(ex) I see a big signboard over there.

あそこに大きな看板が見えます

I hear someone calling my name.

誰かが私の名前を読んでいるのが聞こえる

What do you have in your hand?

手に何を持っています

He is out now.

彼は今外に出ています

上の例文は、まさに「現在の状態」を述べていますから問題ないでしょう。

☞現在時制で上例のような「現在の状態」を表すのは、後述するような状態動詞が多い。

ところが以下の英文はどうでしょうか。

(ex) School starts in April in Japan.

日本では学校は4月から始まる

The earth moves round the sun.

地球は太陽の周りを回っている

上の英文はいずれも現在時制で書かれていますが、日本の制度が変わらない限り、学校は4月開校ですし、地球が太陽の周りを回っているのは、今日に始まったことではありません。つまり昨日[過去]も今日[現在]も明日[未来]も、これらは繰り返される(変化がない安定した)内容ですよね。

このように現在時制は、「過去から始まって現在、そして今後[未来]においても起こるであろう(つまり習慣的)動作・状態」を表しうるのです。一言でいうと現在時制の基本イメージは、現在を中心として、過去・未来においても、

「繰り返し起こる」「(変化がなく)安定している」「確定的」

ということなのです。

(ex) My father works for the bank.

父はその銀行で働いている

上の英文では work が現在時制で用いられています。まさにそんな

「習慣的動作[行為]」

を表しているわけです。つまり

「(現在を中心に、過去から未来に渡る習慣的な行為として)銀行で働いている」と言っているのです。「昨日も働いていたし、明日も、その後も父はその銀行で働くでしょう」ということを言っているのです。したがって、たまたま今日はお休みで銀行に来てはいない、という場合でも使えます。

(2)現在進行形の表す意味。

では、「今、この時[瞬間]」に「働いている(真っ最中である)」という文字通り、

現在行われている真っ最中の動作は何で表すのでしょうか？

それは現在進行形で表します。

現在進行形は

「(今現在)~している真っ最中だ」

というのがその意味の基本ですね。ですから、「父は今その銀行の中で働いている最中だ」は

(ex) My father is working in the bank. ☞まさに「今」働いている最中!

と表現します。

進行形は裏を返せば、まさに「今(その場において)」働いているということではなければ使えないということにもなります。

このように、進行形というのは

「過去やこの先はわからない(あるいは違うかもしれない)が、とりあえず今この時(点)において、ある動作[現象]が行われている最中・途中であり、その動作[現象]は終了していない」

ことを表す形なのです。

現在時制と現在進行形の用例をもう少しいくつか見ていくことにしましょう。

(ex) We live in Hiroshima prefecture.

私達は広島県に住んでいます

上の英文は、「過去においても、もちろん今も、そして今後も、ずっと広島に住んでいる(だろう)」ことを表しています。この英文を

→ We are living in Hiroshima prefecture.

たとえば、「この先のことはわからない(あるいは違う)が、とりあえず現時点で(一時的に)広島県に住んでいる」ということになります。

(ex) Our school stands on the hill.

私達の学校はその丘の上にある

Oil floats on water.

油は水に浮く

The sun is the center of the solar system.

太陽は太陽系の中心である

Time is money.

時は金なり

上の4つの英文も、これまでの説明が理解できれば、なぜ現在時制で書かれているのか、もうわかりますね。すべて「過去・現在・未来すべてに(習慣的に)繰り返される動作・起こる状態」を表しています(過去においても、そして今後[未来]においても、その学校はその丘から動かないだろうし、油は水の上に浮くだろうし、太陽は太陽系の中心であり続けるだろう。また時間が大切なのはいつの時代も同じ)。

これがわかると以下の英文の意味も理解できるはずです。

① What do you do?

② What are you doing?

①は現在時制で書かれています。ということは「昨日も今日も明日も、習慣的な行為として何をしてるんですか?」という意味。つまり相手の身分・職業を聞く表現になるのです。

①のイコール表現には、What is your job? や What line are you in? などがある。

したがって、それに対する答えは

I am a student[an office worker···].

私は学生[サラリーマン···]です

I work for a bank.

私は銀行に勤めています

などとなります。

②の方は、現在進行形が使われているので「(現在、今この瞬間)何をしているのですか」という意味になります。したがってそれに対する答えは

I am studying.

勉強しています

I am cooking in the kitchen.

キッチンで料理をしています

などとなるわけです。

進行形にできない動詞とは？「状態動詞」と「動作動詞」の見極め法。

よく文法書には

「進行形を作れるのは動作動詞のみで、状態動詞は進行形にできない」

と書いてあり、以下のような例文が載っています。

- He resembles his father. 彼は彼の父親に似ている
- × He is resembling his father.

- I know him. 私は彼のことを知っている
- × I am knowing him.

「動作動詞」とは文字通り、「動作[行為・動き]」を表す動詞です。では「状態動詞」とはどんなもののことを指して言うのでしょうか。

文法書には「状態動詞」とは、「(目に見える)動きがない」「行為者の意思によって影響されない」動詞で、具体的には以下の3種類とあります。

①所有・存在(～ている・ある)を表す動詞 ☞下線を引いた語は類出。

belong to「～に所属している」 consist of「～からなっている」 be「ある、いる」 wear「身につけている」
possess「所有している」 deserve「価値がある」 lie「ある」 have「所有している」
contain「含んでいる」 exist「存在している」 own「所有している」 resemble「似ている」等

②思考・心理(思う・信じる・好き・嫌いなど)を表す動詞

know「知っている」 understand「理解する」 think「思う」 like「好む」 hate「嫌う」
 believe「信じる」 remember「思い出す」 love「愛する」 dislike「嫌う」等

③意思によって影響されない知覚(見る・聞くなど)を表す動詞

hear「耳にする」 see「目に入る」 taste「味がする」 smell「臭いがする」 taste「味がする」等

しかし、こんなふうにならなくても、なかなか容易に覚えきれるものではありませんね。そこで、よりカンタンな覚え方をお教えしましょう。それが以下です。

①動作動詞… (自分の意思で)短時間のうちに開始・中断・再開が繰り返せる動詞。

「開始[始まり]」と「終了[終わり]」がはっきりしている動詞。

②状態動詞… (自分の意思で)短時間のうちに開始・中断・再開が繰り返せない動詞。

「開始[始まり]」と「終了[終わり]」がはっきりしていない動詞。

覚えるのは動作動詞の定義だけでいい。なぜなら、動作動詞の定義に当てはまらないのが状態動詞だからだ。

こう考えると resemble(似ている)、know(知っている)が進行形を作れない理由もすぐ納得できます。「(誰かと)似ている」「~を知っている」という状態は、確かに「自分の意思で(短時間の間に)開始・中断・再開」することはできません。更に両者共に、特に「終了[終わり]」がはっきりしていません。

《もう一歩深く!! 進行形の特徴》

先程も説明したように、進行形とは「過去やこの先はわからない(あるいは違う)が、とりあえず今この時(点)において、ある動作を行っている最中・途中でありその動作は終了していない」ことを表す形と言える。

つまり進行形(を用いた英文)とは

- ①その動作・出来事は(開始から終了まで)短期間の(一時的な)ものであり、「始まりと終わり」がはっきりしている。
- ②(途中なのだから)まだその動作・出来事は終わっていない。
- ③(短期間なのだから)近いうちに終わる。

という特徴を持っているのである。

同じ「聞く」でも、hear は「自分では聞かつもりはないのに(つまり本人の意思とは無関係に)耳に入ってきた」という意味。これは「自分の意思で開始」したものではありません(つまり「状態動詞」)。ところが listen は「自分の意思で聞く」という意味。当然「自分の意思で開始」したわけですから「中断・再開」も自分の意思で可能です(つまり「動作動詞」)。したがって進行形にできるのです。

- I heard the doorbell. ○ I was listening to the music.
× I was hearing the doorbell.

これは「見る」という see と watch, look との関係にも当てはまります。

つまり同じ「見る」でも see は進行形にできませんが、watch, look at は進行形にできます。その理由は、see は「自分では見るつもりはないのに(つまり本人の意思とは無関係に)目に入ってきた」という意味。これは「自分の意思で開始」したのではありません(つまり「状態動詞」)。ところが watch, look at は「自分の意思で見る」という意味(つまり「動作動詞」)。当然「自分の意思で開始」したわけですから「中断・再開」も自分の意思で可能です。したがって進行形にできるのです。

- I saw him.
- He is watching TV now.
- × I was seeing him.
- She is looking at the map now.

また see には「会う」という意味もあり、この意味の場合には(自らの意思で開始・中断・再開)ができる、つまり「動作動詞」になるので)進行形を作れます。

(ex) The President is seeing the deputation.

大統領は代表団に接見中です

また、have についても、文法書などには

「持っている」という意味では進行形にできないが、「食べる」、あるいは使役動詞(～させる・してもらう)の場合には進行形にできる」

などと書いてありますが、その理由も同じです。たとえば「トラブルを持っている[抱えている]」といった場合、この状態を自らの意思で開始・中断・再開するのは不可能ですが、「食べる」という行為は、自らの意思でそれができる。だから後者は進行形にできるのです(使役動詞になる場合も進行形にできる理由も同じ)。

× I am having a trouble. ㊦ have としなければならない。

ボクはトラブルを抱えている

- They are having breakfast.
彼らは朝食をとっているところだ
- The teacher was having his pupils write their names.
その先生は生徒達に名前を書かせていた

smell にしても「においがする」という意味では進行形にできませんが、「(自らの意思で)においをかぐ」という意味の場合、その行為は自らの意思で開始・中断・再開が可能なので進行形にできるのです。

○ Roses smells sweet.

バラはよい香りがする

× Roses are smelling sweet.

○ I smelled something in the living room.

居間で何かのにおいがした

× I was smelling something in the living room.

○ I was smelling the flower.

僕はその花のにおいをかいでいた

そうすると、たとえば remain(～のままている)のような、普通は進行形で使わないような(状態)動詞をあえて進行形で使った場合、「(自らの意思で現時点で一時的に)～のままにしている(近いうちに終わる可能性が高い)」といったニュアンスを表すことになります。

(ex) He remained silent.

彼は黙ったままでいた

He was remaining silent.

彼は(故意に)黙ったままでいた

會「状態動詞」を進行形であえて用いるのは、上例のような「一時的な状態」を表す場合と、「推移」を表す場合である。ただ「推移」を表す場合、下の例文のように(経過・推移を表すような)副詞(句・節)を伴うことが多い。

(ex) They are being a real bully again.

あいつら、また弱いものいじめをしてる

※「一時的な状態」の例。上例のように"非難"を表すことが多い。

My sister is resembling her mother more and more these days.

妹は、最近ますます母親に似てきている

※「推移」の例。

進行形の意外な用法。

進行形は「進行中の動作(～している最中だ)」という意味を基本的に表すのですが、これ以外の進行形の"意外な用法"もおさえておきましょう。つまり進行形は進行中の動作を表わす以外に、以下のような用法もあるのです。

會このうち(1)(2)(5)が頻出。

以下の5つに共通するのは、「ある行為が行われている最中」(であり、その行為は「まだ終了していない」という感覚[イメージ]が話者にあるということです。

(1)「確定的な近未来」の内容を表現できる。

現在進行形の「現在～している最中だ」という意味から転じて、「現在既に計画、予定、又は手はずなりが進行中であり、それによって(近未来に)予測されるであろう出来事」に関して使うことができます。

このような現在進行形の用法は、近い未来の個人的な予定を表すことが多いですね。

(ex) We are getting married next April.

私たちは来年の四月に結婚する予定です

上の英文でも、彼らの結婚に向けての計画が、現在も進行中であることが類推できます。

(2)進行形が(「～ばかりしていやがる」といった)話者の不満・いらだちを込めた「習慣[反復]的行為」を表わすことがある。

この意味では、

always「いつも」、constantly「絶えず」、forever「永遠に」、all the time「いつも」

など、頻度の副詞を伴うことが大半です。そしてその場合、話者の不満、いらだち、当惑、不快などを表わすわけです。

(ex) My wife is always complaining about something.

妻はいつも何か愚痴をこぼしている

上の英文でも、今現在妻が愚痴をこぼしている最中ということではありません。しかし話者の感覚[イメージ]の中では、愚痴をこぼす妻の姿がありありと浮かんで、その話しをしている、そんなイメージです。結果、夫の妻に対する不満の気持ちが込められるというわけです。

(3)状態動詞を進行形で用いると「(その時・場における)一時的な状態」を表せる。また「be being+形容詞」で「(いつもと違って)今日はやけに～だ」「他とは違ってやけに～だ」という意味になる。つまり「**今この時[瞬間]だけ**の状態を表します。

(ex) He is being bossy today.

彼は今日はまたやけに威張っているじゃない

(4)進行形が、期間を示す副詞句等を伴って「限られた期間内の習慣的な行動」を表すことがある。

(ex) You are taking golf lesson these days.

君はこのごろ、ゴルフのレッスンを受けているそうだね

上記の英文も、今この時間にゴルフのレッスンを受けている最中であることを言っているわけではありません。しかし、話者の中では「今、レッスンを受けている最中」という感覚[イメージ]があります。

(5)進行形が「到達への接近」を表すことがある。

瞬間的に終わる動作(「die(死ぬ)」「drown(溺れる)」等)や、ある時点での達成[完了]を表す動詞(「stop(止まる)」等)が進行形になると、その動作・達成[完了]への接近、つまり「**～しかかっている**」「**～しつつある**」という意味を表します。

(ex) My grandmother is dying.

祖母は死に瀕している

The ship is stopping.

船は止まりかけている

上の英文の be dying, be stopping も、その「出来事[行為・動作]」の真っ最中である ⇒ まだそれは終わっていない[その途中である] ⇒ 「死にかかっている」「止まりかけている」という意味になるのです。

ちなみに「止まっている」という状態を表す表現は、以下のようになります。

The bus was standing.

そのバスは止まっていた

=The bus was stopped.

後の例の stopped は、自動詞の過去分詞で受身形ではありません。

レクチャー4

過去進行形と未来進行形。

(1)過去進行形。

過去進行形は

「過去の一時点における進行中の動作(～している最中・途中だった)」

を表します。したがって、動作(を表す)動詞が明確な過去の1時点を示す語句とセットで用いられた場合に過去進行形になると、(基本的には)考えた方がいいのです。

(ex) I was listening to the radio when my mother came into my room.

【動作動詞】

【明確な過去の一時点】

母が部屋に入ってきた時、私はラジオを聞いている最中だった

それから、もちろん過去進行形は(現在進行形がそうだったように)、always, all the time, constantly などの頻度の副詞と共に用いられると、話者のいらだち、不満を含めて過去の「習慣[反復]的行為」を表すこともできます。

(ex) When young, he was always causing trouble for others.

若いころは、彼はいつも他人に迷惑ばかりかけていたものだった

(2)未来進行形。

逆に未来進行形は、「未来の1時点における進行中の動作(～している最中・途中だろう)」を表します。

したがって、動作(を表す)動詞が明確な未来の1時点を示す語句と用いられた

場合に、未来進行形になることが多いとみればいいでしょう。

(ex) I'll be waiting for you at 3 o'clock tomorrow.

【動作動詞】

【明確な未来の一時点】

明日の3時にはあなたをお待ちしていることでしょう

ただ、未来進行形には「(意思とは無関係の)未来の成り行き」を表す言い方もあります。

(ex) I'll be seeing her one of these days.

彼女に近いうちに会うことになっている

I'll see her one of these days. だと、「近いうちに彼女に会うつもりだ」という話し手の意思を表しますが、上例のようにすると、「(私の意思に関係なく)近いうちに彼女に会うことになるだろう」という成り行きを表すことになるのです。

レクチャー5

未来表現。

(1)英語には「未来時制」という時制はない。

英語には未来時制などないというと、

「え？ will+do【原形】が未来時制なんじゃないんですか(>_<)??」

と思う人も多いはずです。

しかし本来英語では、時制は動詞の形を変化させて表すものなのです(例えば過去時制なら動詞に ed をつける、といったように)。そうしてみると

will+do【原形】

というのは、助動詞の will の助けを借りて動詞が未来の内容を表しているに過ぎず(つまり動詞自体の語尾、即ち形が変わったわけではないので)、本当の意味での時制ではないのです。「will+do【原形】」は、あくまで助動詞表現なのです(学習者への説明の便宜上「未来時制」という言葉を用いているにすぎない)。

(2) 未来の内容を表す様々な表現。

英語には「未来」を表す決まった形[時制]がないので、結局、未来の出来事を表す場合、(will+do[原形]を含め)さまざまな表現を使ってそれを表そうとします。だから、未来を表すのに

① will+do[原形]～

② be going to do[原形]～

③ 現在進行形

④ 現在時制

⑤ be about to do[原形]～ 「(今にも)～しようとするところだ」
=be on the point of doing～

(ex) I was about to leave the house, when the telephone rang.

家を出ようとしたらちょうどその時、電話が鳴った

Ⓢ be going to よりも改まった言い方で、差し迫った未来について用いる。そのため、基本的に未来を表す副詞(tomorrow等)とは一緒に用いることはない。

⑥ be to 構文「～する予定になっている」

(ex) The meeting is to be held tomorrow evening.

その会合は明日の夕方に開催される予定になっている

The concert is to begin at seven.

コンサートは7時に始まる予定になっています

Ⓢ be to 構文が「未来」を表す場合、通例、未来の時を表す副詞を伴う。

など、いろんな表現が出てくるのです。これが未来表現だけいろんな言い方がある本当の理由なのです。

ただこれらの表現は、元来もっていた意味をひきずりながら未来の内容を表すので、同じ「未来」といってもそれぞれ微妙にニュアンスが異なってきます。

それぞれの未来表現のもつ意味合いをしっかりとマスターできれば、君ももう英語通といえるでしょう(^-^)

(3) will の表す未来。

助動詞の will は、本来

「推測(～だろう)」 「意思(～します・～してあげますよ)」

を表します。

このような will が未来を表すのに用いられるのは考えてみれば当然で、未来の出来事の多くは、現在にいる我々にとって「推測」したり「意図」したりするものだからです。

(ex) It will be fine tomorrow. [推測]

明日は晴れるでしょう

I will do the work tomorrow. [意思]

明日僕がその仕事はしましょう

このように will が表す未来表現には、「推測」「意思」が含意されることを覚えておきましょう。

(4) be going to が表す未来。

まず、be going to という言葉の成り立ちから考えてみましょう。言うまでもなく go は「行く」という意味。be going (to do[彫]~)は、その進行形なので

「現在、(~するために)向かって行っている途中(最中)である」

という意味になります。そこから

「現在~することを既に考えていて(意図をもっている)、それを将来において実現するつもりでいる」

「未来のある出来事を引き起こすであろう根拠[兆候]が現在すでに(ここに)ある」

といった意味合いが生まれるのです。

(ex) I am going to marry John.

ジョンと結婚するつもりよ

上の英文は、ジョンと結婚することを既に決めており(その意図を持っており)、そのようにするつもりだ、という意味が込められています。

① It will rain.

② It's going to rain.

同じ「雨が降るだろう」でも、①の方はただ漠然と(客観的に)推測しているだけ。②の方は、現在すでに、雨を予感させるような兆候(例えば灰色雲のような)がそこにあるという意味合いが感じ取れます。

このように be going to は、will のような単なる「(客観的な)推測」「(その場の)意思」ではなく、「話し手の見込み・確信」を表すことになるのです。

「will と be going to の違い」のまとめ

(1) be going to … ①前もって考えられていた意図[思](~することになっている)

②話し手の(主観的)見込みや確信

☞「既にその根拠となる兆候があって、近い将来にあることが窺いそうだ」というニュアンスが含まれる。

(2) will … ①その場で生じた意図[思](~しよう)

②客観的な未来(に対する推測)

(ex) A: The telephone is ringing. 電話が鳴っているわ

B: I'll get it. 僕が出るよ

×I'm going to get it.

☞主語が一人称(I, We)の場合には「前もって考えられていた意図」を表すのにも will が用いられることがある。

She is going to be a good teacher.

彼女は良い教師になるだろう ☞話し手の確信を暗示。

It's going to snow any minute now. ☞話し手の確信を暗示。

(空模様などから)すぐにも雪になりそうだ

According to the weather forecast, It will snow tomorrow.

天気予報によれば、明日は雪が降るでしょう ☞客観的な言い方。

なお、条件節などを伴っている場合には will を用いる。be going to は使えない。

(ex) If it rains tomorrow, I will[×am going to] stay home.

もし明日雨が降れば、家にいます

(5)現在進行形(be+doing~)の表す未来。

特に現在進行形の場合は、元来が「(現在)~している最中だ」という意味があるので、そこから転じて「現在既に計画、予定、又は手はずなりが進行中で、それによって(近未来に)予測されるであろう出来事」に関して使うことができます。この現在進行形の用法は、近い未来の個人的な予定・計画を表すことが多いです。

(ex) We are getting married next June.

私たちは来年の6月に結婚する予定です

We're moving next week.

来週引っ越します

be going to も前もって考えられていた意図を表しますが、be doing~ を用いた方が、より強い意図を表します。

(ex) I am leaving Jack.

ジャックとはきっぱり別れるつもりよ

(6)現在時制の表す未来。

その予定が、近い将来のことで、なおかつ変更の可能性がほとんどあり得ない確定的なものである場合に、(あたかもそれが既定の事実のようにみなして)現在時制で表すことがあります。ただし、未来を表す副詞を伴うのが普通です。

(ex) I make my speech tomorrow.

明日スピーチをする予定です

この現在時制の用法は、団体などの予定・計画、また公共交通機関の発着の予定などに対して使われることが多いです。

(ex) We leave Tokyo for Hiroshima tomorrow.

我々は明日、東京を発って広島に向かいます

時・条件の副詞節中の時制のポイント。

「接続詞 S+V～」の形で、接続詞が「時」又は「条件」を表すものだった場合、その節内の動詞(V)の時制は、以下の様に変化します。

- ①本来なら未来形(will do[原形]～)で表すべき内容でも現在形で代用する。
- ②本来なら未来完了形(will have+p.p.～)で表すべき内容でも現在完了形で代用する。

| | | |
|------|-----|---|
| 接続詞 | S+V | ☞先頭の接続詞が「時」「条件」なら、 |
| [時] | | (1)本来なら未来形(will do[原形]～)で表すべき内容 ⇨ 現在形で代用する |
| [条件] | | (2)本来なら未来完了形(will have+p.p.～)で表すべき内容 ⇨ 現在完了形で代用する |

具体的にそのような接続詞とは、以下になります。

《「時」「条件」を表す副詞節を導く接続詞》

- ①「時」を表す副詞節をつくる接続詞

| | | | |
|------------|-----------|-------------|------------|
| when | 「～した時」 | until | 「～するまで」 |
| as soon as | 「～するとすぐに」 | once | 「いったん～すると」 |
| the moment | 「～するとすぐに」 | after | 「～した後で」 |
| before | 「～する前に」 | by the time | 「～する時までには」 |
- ②「条件」を表す副詞節をつくる接続詞

| | | | |
|----------------|-----------|-----------------|----------|
| if | 「もし～なら」 | in case | 「～の場合には」 |
| as[so] long as | 「～しさえすれば」 | provided (that) | 「もし～なら」 |
| unless | 「～しない限り」 | =providing | |

ただし、上記の接続詞のうちで注意を要するのが when と if です。なぜなら、when と if に限っては、それらが先頭にくっついているからといって即、上記のルールが当てはまるとは限らないからです。when の場合、以下の3種類の意味がありますが、このうち上記のルールが当てはまるのは3の「(～の時)」「(～し)たら」と訳せる when の場合のみ。それ以外は未来の内容は当然、未来形で表します(ただ実際には形容詞節を導く when に関する問題はほとんどありません。おさえる

べきは1.と3.の when の見極め)。

- when 1. [名詞節] 「いつ」
2. [形容詞節] 訳さない(関係副詞のwhen)
3. [副詞節] 「(～の)時」 「(～し)たら」

if の場合、以下の2種類の意味がありますが、このうち上記のルールが当てはまるのは、2.の「もし～なら」と訳せる if の場合のみ。

if 1.[名詞節] 「～かどうか」

會名詞節を導く(「～かどうか」という意味になる)if節は、以下のような動詞の目的語になることが多い。

| | |
|-------------|--|
| know 「分かる」 | } if S+V～ ☞ このような if は「～かどうか」と訳す。 ○ この場合は、未来の内容は「未来形」で表現する。 |
| ask 「尋ねる」 | |
| doubt 「疑う」 | |
| see 「調べる」 | |
| tell 「分かる」 | |
| wonder 「思う」 | |
| V | |

2.[副詞節] 「もし～なら」

會副詞節を導く if 節は、具体的には

- ① If S+V～, S+V…
- ② S+V～, if S+V…

という構造で現れる。

それから if 節は、(名詞を修飾するような)形容詞節になることはない。

つまり、when の場合は、それを「～(し)たら」「～(の)とき」と訳せる時、if の場合は、それを「もし」と訳せる時、たとえ未来の内容でも節内の動詞は現在形で代用する(未来完了形で表すべきものも現在完了形で代用する)と覚えればいいのです。

《演習》以下の()内の動詞の時制を適切なものに変えなさい。

- (1) When he (arrive), I want to say hello to him.
- (2) I don't know when he (arrive) tomorrow.

(3) If it (rain), I'll be home.

(4) I doubt if he (come) to our home tomorrow.

- 正解:(1) arrives 「彼が到着したら、挨拶したい」
(2) will arrive 「彼が明日のいつ到着するのかわかりません」
(3) rains 「もし雨が降れば、家にいます」
(4) will come 「彼が明日我が家に来るかどうかは疑わしい」

《もう一步深く!!なぜ未来の内容でも現在時制で代用するのか》

まず現在時制が表す意味について確認してみましょう。現在時制とは、一言で言うと

「(変化がなく)安定している」「確定的」

であることを指します。そこで以下の英文を見てください。

I want to say hello to her when she **arrives**.

彼女が到着したら、彼女に挨拶をしたい

If it **rains**, the game will be cancelled.

もし雨が降ったら、試合は中止になるだろう

上記の英文において、arrives と rains は未来の内容なのに現在形が使われています。その理由は、when she arrives と If it rains は、それぞれの主節の行為・出来事(「彼女に挨拶をする」「試合は中止になる」)が起きる前提であり、話し手の中では、ある種の「(揺るぎない)事実」「確定的なこと」としてみなされている(それがあっての「挨拶」であり「試合の中止」だから)ことだからです。

その一方で

I don't know when she **will be** back.

彼女がいつ戻ってくるのかわからない

Ask Jack if she **will come** tomorrow.

彼女が明日来るかどうか、ジャックに聞いてみなさい

と、こちらの when 節内、if 節内では will が用いられるのは、「いつ彼

女が戻ってくるのか」「彼女が明日来るかどうか」は、話し手にとって「(揺るぎない確定した)事実」「確定的なこと」ではなく、あくまで予測[推測]的内容にすぎないからです。

レクチャー7

完了形。

(1)現在完了。

①現在完了とは

現在完了とは、その文の主語の過去に行った「動作」や過去の「状態」が、現在の状況に(何らかの形で)影響を及ぼしている、つながりがあることを表します。言い方を変えれば、(完了形を用いた文で)話題にしている出来事は「過去のこと(完了してしまったこと)」、しかし話し手の焦点[視点]は「(その過去の出来事によって影響を受けている)現在」にあります。

ある過去の「動作・出来事・状態」を現在に心の視点を置いてながめており、必ずそこには「今」が含まれているのです。

(注)過去に始まった「行為[動作]」が現在も継続中である場合には「have+been+～ing」という形を用いる。詳しくは後述。
たとえばこんな2つの英文のニュアンスの違いわかるでしょうか。

① I finished it.

② I have finished it.

①は、単に過去において、「それを終えた」といっているのみ。そこに「今」は存在しません。

②つまり過去時制は、現在とは切り離された内容を表すのだ。

ところが②の方は、「(「それを終えた」という過去の出来事によって影響を受けている)今」が含まれており、そこに話者の心の焦点があります。「私はそれを終えてしまった(だから今、もう遊びに行ける、家に帰れる、寝れる…)」といったふうに。

次の英文はどうでしょう。

(ex) They have been married for four years.

彼らが結婚してから4年になる

この英文は、「彼ら」が「4年前に結婚」して、その状態が現在まで継続していることを示しています。

こんな考え方をしてもいいでしょう。have は動詞の場合、「持つ」という意味がありますね。つまり上の英文は「結婚している」という状態を「(現在まで)4年間持っている」、と考えれば分かりやすいですね。

They have been married for four years.
Ⓢ Ⓥ ○

このように現在完了の have も、一般動詞の「持っている」という意味の have も、元々の意味は同じなのです。

⚡つまり**現在完了とは、現在時制の一種**なのである。

なお上の分析図はネイティブの頭の中の発想を図にしたもの。つまりネイティブがいちいち have a pen の have は「一般動詞」で、have been の have は「助動詞」と、頭の中で確認しながらものをしゃべっているわけではないわけで、彼らの頭の中で両者の have は同じ感覚でとらえているのだということを図にすれば、このようなものになるということ(つまり「"感覚"を"形"に現したもの」であり、文法論的な文型の分析とは異なるので注意)。

では次に、下のように過去時制にした英文との意味の違いはどこなのでしょう。

(ex) They got married four years ago.

過去時制は、当たり前ですがあくまで過去の事象について述べるもの。つまり上の英文では、現在とのつながりが切り離されてしまっています。「4年前に結婚した」のはわかりますが、今も結婚生活が続いているのかどうかは、この文ではわからないのです。視点はあくまで「過去」にあるのであり、「今」は含まれていないのです。

このように過去時制と現在完了の意味の上での決定的な違いは、「**現在**」という**時点を(話者が)意識に含むかどうか**なのだと言えるでしょう。

(ex) They were married for 20 years.

とすれば、20年間結婚していたことと現在との接点が(「現在」に焦点がない)ない(切り離されてしまっている)わけで、彼らは今は離婚してしまっていることを暗に示すことにもなりえます。

結論として現在完了とは、「過去の出来事を話題に出しながら、(その過去の出来事によって

影響を受けている)現在について語る」ものの言い方であり、話者の意識の中心[焦点]はあくまで「現在」にある。

したがって現在完了を使うときには、話題にする「過去の出来事」は常に現在と何らかの密接な関係になくしてはならないということになります。

(1) I have lost my watch.

私は時計をなくしてしまった

(2) My father has gone to Nagoya on business.

父は仕事で名古屋に行きました

(3) My daughter has been killed in the accident.

その事故で娘は死んでしまった

(1)は、「時計をなくした」という過去の状態を現在も持っている(つまり今もっ
て見つかっていない状況にある)というところに話者の焦点があります。

I lost my watch. という過去時制の英文では、なくした時計が今見つかっているかどうかはわかりません。あくまで「時計をなくした」という、過去のその時点に焦点があります(現在と切り離されてしまっている)。

(2)は、「父は名古屋に行ってしまった」という結果が現在でも続いている、つまり、「今はここにはいない」というところに話者の焦点があります。

(3)は、「娘がその事故で死んでしまい、今現在もなおそのことが私に影響を与えている(ショックが続いている)」ことを暗示しています(そしてそこに話者の焦点がある)。この英文を was killed と過去時制で書けば、「娘が死んだこと」が現在の私に影響をさして与えていないことを暗示しうるのです。

②現在完了の意味

現在完了とは、見方を変えれば「**現在までの"時の幅"**」を表すと見ることもできるでしょう(もちろん話者の心の視点は「現在」にある)。

つまり「完了=時の幅」と考えてもいいでしょう。現在完了は「現在までの時の幅」、即ち現在を最終到着地点[基準点]として、現在までの時の幅(具体的には「結果・完了、経験、継続」)を表すのです。

1.過去に開始した動作が完了して、現在その結果(としての状態)があることを表す(そしてそれが現在に影響を及ぼしていることに焦点が置かれる) [完了・結果]

④ **just**(ちょうど)、**already**(すでに)、**yet**(もう) 等の副詞を伴うことが多いが、それがない場合もある。「動作動詞」の多くは、(alwaysなど、頻度の副詞と共に用いる「経験」を表す場合を除いて)この(「完了」「結果」の)意味で現在完了で用いられる。

(ex) I've just finished lunch.

いま昼飯を食べ終わった

Has it struck twelve yet?

もう(時計は)12時を打ちましたか

My sister has gone to Tokyo for pleasure.

姉は東京へ遊びに行きました

④「東京に行くという行為が完了している」、ゆえに「姉はもうここにはいない」というその結果としての現在の状態を表している。

2.現在までの経験を表す(つまり過去の出来事を述べながら、今そういった経験を持っていることに焦点が置かれる)。 [経験]

④ **ever**(かつて)、**never**(一度も～ない)、**before**(以前に)や**often**等の(特に頻度の)副詞を伴うことが多い。

(ex) "Have you ever seen a living lion?"

生きたライオンをこれまでに見たことがあるかい

My father has rarely had to see a doctor.

父はめったに医者にかかるほどの病気をしたことはありません

3.過去に開始した動作・状態が現在まで継続していることを表す(つまり今もそういった状態[況]にあることに焦点が置かれる) [継続]

④「**for**+数詞等を伴った期間」、「**since**+過去の起点(となった日時や出来事等)」のような副詞を伴うことが多い。なお、この(「継続」の意味で用いる)場合、一般的に状態動詞が使われる。

(ex) Five years have passed since they got divorced.

彼らが離婚して5年になる

=They've been divorced for five years.

Nancy has been playing the piano for three hours.

ナンシーは3時間ずっとピアノを弾いている

④上例は、「ピアノを弾く」という動作(行為)を(休むことなく)3時間ずっと続けている(つまり継続している)、という意味になる。このように、動作動詞を「継続」の意味で用いる場合、必ず「現在完了進行形(have been+～ing)」にしなければならない。

Nancy has played the piano.

上のように普通の現在完了にしてしまうと、「ピアノを弾く」という動作は、現時点では「完了(つまり終わっている)」ことになる。(しかし話者の視点は「現在」にある)。

先に述べたように、「動作」動詞を普通の現在完了で用いた場合、たいていは「完了・結果」となってしまうのである。

☞ただし、ある動作がとてもし長い期間にわたって継続し、しかも今もそれが継続しているときには、しばしば動作動詞でも現在完了で「継続」の意味が表せる。

(ex) My father has smoked for thirty years.

上の英文は、「父は、過去30年間に渡ってたばこを吸っている(今もたばこを吸う習慣がある)」という意味だが、30年という長きに渡る継続であるために、smoke は動作動詞であるにもかかわらず、has been smoking とはしていない。しかしこれはあくまでも「ある動作がとてもし長い期間にわたって継続し、しかも今もそれが継続しているとき」という条件が当てはまる場合のみであり、以下のような英文は成り立たない。

(ex) It has rained for three days.

上例の場合、「3日間」では短すぎるのだ。ここでは rain は動作動詞なので、has been raining としなければならない。

(2)過去完了(had+p.p.～)。

①過去完了の意味

現在完了が、現在を最終到着地点(基準点)として、現在までの「完了・結果」「経験」「継続」を表しましたが、過去完了は、過去のある一時点を最終到着地点[基準点]として、その時までの「完了・結果」「経験」「継続」を表します。現在完了の基準点が「現在」なので、それが「過去の一時点」に移動したものと考えればいいでしょう。

したがって過去完了を用いる場合には、前提としての過去の一時点[基準点]を表す表現が必ず必要になります(それが無いのに過去完了だけの単独の英文というのは非常に不自然な英文ということになる※)。

※例外として、以下のようなものはあり得る。

(ex) I had intended to join the club with you.

これは intend、hope といった「願望」「意図」「期待[希望]」「予想」を表す動詞においてのみ起こりうる。つまりそのような動詞は、(単独で)過去完了で使われると、「その願望・期待・希望・予想が実現しなかった(その通りにならなかった)ことを言外に表す」のだ。したがって上記の英文の意味は以下のようになる。

「ボクはキミとそのクラブに入会するつもりだったんだよ(実際には入会できなかったんだが)」

→ I intended to join the club with you.

と過去形で書いた場合には、実際に入会したのかしなかったのか、この文では判断できない。

以下が、具体的な過去完了の表す内容ですが、過去完了とは、見方を変えれば「過去の一時点までの”時の幅”」を表すと見ることもできるでしょう(もちろん話者の心の視点は「その過去の一時点」にあり、そこからそれ以前を振り返っている)。

④「完了=時の幅」。ということは、過去完了は「過去(の一時点)までの時の幅」、即ち過去(の一時点)を最終到着地点[基準点]として、そこまでの時の幅(具体的には「結果・完了、経験、継続」)を表すのだ。

1.過去の一時点までの「(動作の)完了」そして「その結果(としてのその時点における状態)」を表す。

(ex) The train had already left before we got to the station.

私達が駅に着く前に、列車はもう出発してしまっていた

2.過去の一時点までの「経験」を表す。

(ex) She had had several proposals of marriage before she was thirty.

彼女は30歳になる前にプロポーズを数回されたことがあった

3.過去の一時点までの「(状態の)継続」を表す。

(ex) The house had been empty for two years when they rented it.

その家は彼らが借りたとき、それまでの2年間空き家になっていた

Mark had been waiting for an hour when Jimmy arrived.

ジミーが到着した時点で、マークは1時間待っていた

④動作動詞を「継続」の意味で用いるときは、上例のように過去完了進行形(had been+〜ng)にしなければならない。

②大過去

過去完了は上記の意味以外に、過去のある一時点よりも更に昔の動作や出来事を表す場合もあります。これを「大過去」といいます。

(ex) I lost the glasses I had bought the day before.

前の日に買ったメガネをなくしてしまった

上の例文で「メガネをなくした」こと自体が過去の事実で、「買った」のはそれよりも更に昔の事実(大過去)。したがって過去完了(had bought)で書かれているわけです。

このように(現在完了形・未来完了形と異なり)過去完了形だけは、2種類の用法がありますが、どちらも「過去のある一時点【基準点】からそれ以前を振り返る形」という点では共通しています。

③過去完了に関連した注意すべき問題。

以下の問題ですが、正解は①と②のどちらでしょうか？

Q. I () my cellphone, but found in my bag later.

- ① lost ② had lost

正解は①なのです。

「え～っ、携帯を無くしたことの方が、見つけた(found)ことよりも時間的に前(古い・昔)のだから、過去完了形を使うんじゃないの(o>ω<o)?」

と思うかもしれませんが、過去完了形というのは、あくまで「ある過去の一時点【基準点】からそれ以前を振り返る形」なのです。上の英文は別に「見つかった」時点から、「無くした」ことを振り返って見ているわけでもなく、単に時系列(事が起きた順)に従って出来事を述べているにすぎません。このような場合には、過去完了形は用いず、単に過去形で表現すればいいのです。同じような例を以下にあげてみましょう。

(ex) I left[×had left] work at 5, went[×had gone] to market to buy groceries and then came home about 7.

私は5時に仕事を終えて、マーケットに食料品を買いに行き、そして7時頃帰宅しました

それから before や after などが用いられ、時間の前後関係が明瞭な場合には、過去形、過去完了形、どちらを用いてもかまわないというルールもあります。

(ex) I came back five days after she left[had left] Aomori.

彼女が青森を離れた5日後に私は帰ってきた

He came[had come] home before dinner started.

夕食が始まる前に彼は帰宅した

もう一題やってみましょう。

I in China for three years when I was a child but I can't speak Chinese at all.

- ① have been ② have once stayed ③ lived ④ had lived

【解答】 ③ (子供の頃3年間中国に住んでいましたが、中国語は全く話せません)

【解説】

- (1) 「子供時代(when I was a child)」という過去の事実[経験]について述べているだけなので、過去時制(lived)を選べばいい。
①と②が不正解の理由は、「明確な過去の内容を表す語と現在完了をセットで用いることはできない」というルールがあるため。本問では when I was a child がそれにあたる。このような語句には他に yesterday, three years ago, just now, 疑問詞の when[what time]等がある(特に just now は要注意。なぜなら just だけ、now だけなら現在完了と共に用いることができるからだ)。
- (2) ④(had lived)を正解として選んでしまった人も多いはず。なぜ④が不正解かというと、過去完了というのは(現在完了が、現在を最終到着地点[基準点]として、現在までの「完了・結果」「経験」「継続」を表すのに対して)、過去のある一時点を最終到着地点[基準点]として、その時までの「時の幅」(具体的には「完了・結果」「経験」「継続」)を表す。現在完了の基準点が「現在」なので、それが「過去の一時点」に移動したものと考えればいいだろう。言い方を変えれば、過去完了とは「過去のある一時点[基準点]からそれ以前を振り返る形」であり、したがって過去完了を用いる場合には、前提としての過去の一時点[基準点]を表す表現が必ず必要になるのだ(それが無いのに過去完了だけの単独の英文というのは非常に不自然な英文ということになる)。本問の場合、when I was a child(子供の頃)という表現があるが、これは過去の一時点を表す表現ではない(子供時代というのは「一定の幅のある期間」であり、「点」ではない)。したがって(過去の一時点[基準点]を表す語句がないので)過去完了形は使えないのだ。

(3)未来完了(will+have+p.p.～)。

未来完了は、未来のある一時点を最終到着地点[基準点]として、その時までには予想される「完了・結果」「経験」「継続」を表します。

以下が、具体的な未来完了の表す内容ですが、未来完了とは、見方を変えれば「**未来の一時点までの”時の幅”**」を表すと見ることもできるでしょう(もちろん話者の心の視点は「その未来の一時点」にある)。

☞「完了=時の幅」。ということは、未来完了は「未来(の一時点)までの時の幅」、即ち未来(の一時点)を最終到着地点[基準点]として、そこまでの時の幅(具体的には「結果・完了、経験、継続」)を表すのだ。

①未来のある時点までに予想される「(動作)完了」そして「その結果としての(その時点での)状態」を表す。

(ex) I will have finished my work by the time he appears here.

彼がここに現われる頃までには私は自分の仕事を終えてしまっているだろう

②未来のある時点までに予想される「経験」を表す。

(ex) I'll have been to Kyoto five times if I go there again.

今度京都へ行ったら、5回行ったことになる

③未来のある時点までに予想される「(状態)継続」を表す。

(ex) We will have been married for three years next month.

私達は来月で結婚して3年になる

Jack will have been studying for six hours in twenty minutes.

あと20分で、ジャックは6時間も勉強し続けていることになる

☞動作動詞を「継続」の意味で用いるときは、上例のように未来完了進行形(will have+been+～ing)にしなければならない。

(4)現在完了と共に用いてはならない語句がある。

以下の語句が文中に用いられると、それによって「現在」との接点[つながり]が切れてしまい、話者の視点が「現在」ではなく、「過去のある時点」になってしまいます。したがってこれらは、話者の焦点[視点]が「現在」にある現在完了とは一緒

に用いることはできません。

①明確に過去の内容を表わす語句

three years ago「3年前」 when I was a child「子供の頃」 in 1964「1964年に」
yesterday 「昨日」 last Sunday 「先週の日曜」 just now「ついさっき」

(ex) × It has rained yesterday. → ○ It rained yesterday.

②疑問詞の when, what time 「いつ」

(ex) × When have you finished it? → ○ When did you finish it?

中でも just now(ついさっき)は注意が必要でしょう。なぜなら、just「ちょうど」だけ、あるいは now「今」だけなら現在完了と共に使えるからです。just now というのは just a few minutes ago の意味なので、現在完了と一緒に使えません。

(ex) × John has come home just now. → ○ John came home just now.

☞ before「以前に」、once「かつて」、in the past「過去に」等は、現在完了と共に使える。

☞ just now は「ちょうど今」という意味もあるが、その場合は現在時制と共に用いる。

(ex) I can't see anyone just now.

今ちょうど誰にも会えない

また、「すぐに(=soon)」という意味もあるが、その場合は未来形と共に用いることが多い。

(ex) I'll be coming just now.

すぐに参ります

(5) 「have been to A」 と 「have gone to A」。

① have been to A

☞ 「(Aに行って)Uターンしてきた」というイメージになる。

1. 「(ちょうど今)Aに行ってきたところだ」【完了・結果】

(ex) I have been to the station to see him off.

彼を見送りに駅に行ってきたところだ

cf; I have been in Japan for 3 years.

3年日本に住んでいる

2. 「Aに行ったことがある」〔経験〕

(ex) I have been to Japan twice.

2度日本に行ったことがある

② have gone to A: 「Aへ行ってしまった」〔完了・結果〕

會Aに至る、一直線の矢印のイメージになる。

そして「行ってしまった(つまりもうここにはいない)」のだから、I(私)、つまり話者本人が、この構文の主語になることはない。

(ex) He has gone to America.

彼はアメリカに行ってしまった(つまりもうここにはいない)

(6) 「現在完了進行形(have+been+~ing)」。

「動作動詞」が現在完了において「継続」の意味で使われる場合には、「現在完了進行形(have+been+~ing)」にする必要があります。これは現在までの動作の継続(つまり「過去にはじめた動作が、今もって続いている〔継続中である〕」という意味)を表します。

(ex) Mr. Brown has been waiting to see you since three o'clock.

ブラウンさんが3時から(あなたに会うために)待ってらっしゃいますよ

會ただし下記の例文のように直前にその動作が完了している場合にも用いることはある。

(ex) Somebody has been sleeping in this bed.

誰かが(直前まで)このベッドで寝ていた

ということは、「動作動詞」が未来完了において「継続」の意味で使われれば「未来完了進行形(will have+been+~ing)」になり、過去完了において「継続」の意味で使われれば「過去完了進行形(had+been+~ing)」になるわけです。

(ex) It will have been raining a whole week if it is rainy tomorrow.

もし明日雨なら、丸1週間雨が降り続いたことになる

When she arrived, I had been waiting for three hours.

彼女が着いたとき、私は3時間待っていた

「父が死んで3年になります」型の書き換え。

「父が死んで3年になります」という表現は、以下の3種類の書き換えができます。
このタイプの書き換え問題は頻出ですから、しっかりおさえておきましょう。

My father died three years ago.

=My father has been dead for three years. ☞ die は「死ぬ」という、瞬間の動作を表す動詞なので「時の幅」を表す完了形と一緒に用いることはできない。
× has died
しかし be dead は「死んでいる」という「状態」を表す。
「3年間死んでいる状態だ」と考えれば、完了形と共に使える。

=It is[has been] three years since my father died.

=Three years have passed since my father died.

時制に関するその他の重要関連項目。

(1)時制の一致とその例外。

①時制の一致とは

「時制の一致」というのは、主節(接続詞などのついていない「S+V」のこと)の動詞が過去時制になると、従属節(例えばthat節などの、接続詞のついている方のS+V)の時制もそれに合わせて時制を過去に向かって1つずらすことを言います。

(ex) I think that he is kind. ⇨ I thought that he was kind.
過去時制になると

②「時制の一致」の例外

1.常に現在時制を使わなければならない場合がある。

i 不変の真理を表わすとき

(ex) We were taught at school that the earth moves around the sun.
[×moved]

学校で、地球は太陽の周りを回っていると習った

ii 社会通念・習慣的・反復的な動作・職業など

(ex) My grandfather would often say that time is money.
[× was]

祖父はよく時は金なりと言ったものだ

會要するに「**現在もそれが成り立つ**」という話し手の意識[気持ち]がある場合、「**現在時制**」を用い、**時制の一致をかけない**のです。たとえば以下のような英文があります。

(ex) Jimmy said that Jack will leave Nagoya on the 23th.

ジャックは23日に名古屋を発つだろうと、ジミーは言った

これは、この文が述べられたのが20日だったとすれば、ジャックが名古屋を発つのは、(述べられた時点[現在]でも)未来の出来事であるわけで、正しい表現になるのです。「不変の真理」「社会通念」といったものも、現在においてもそれが成り立つ、という意識が働くがゆえに現在時制を使うのです。

このように時制というのは、「時間」とは違って客観的・物理的な概念ではありません。あくまで伝えようとしている事柄を、時間の流れの中で話者がどこに位置づけるのか(「現在」よりも前なのか、後なのか)の問題になるのです。つまり、その位置づけは客観的・物理的に決まるのではなく、話者の意識[気持ち]によって選択されるものなのです。

2. 歴史的な事実は常に過去形にする。

(ex) Did you know that French revolution broke out in 1789?
[× had broken out]

フランス革命は1789年に起きたって知ってましたか

上の英文で、「フランス革命が起きたのは、youが『知っていた』時点より昔のことなのだから had broken out になるのでは」などと考えるはいけません。(歴史の教科書に載るような)歴史的な事実は常に過去形で表現するのです。

(2) 「時」に関する重要構文。

① S+had not+p.p.～ before[when] S+V(過去)… 「～しないうちに…した」

(ex) I had not waited long before he came along.

そんなに待たないうちに彼がやってきた

I had not gone very far before it began to rain.

そんなに遠くに行かないうちに雨が降りだした

② It will not be long before S+V～ 「まもなく～するだろう」

(ex) It won't be long before he can speak English. won't = will not

=It won't be a long time before he can speak English.

=He can speak English soon[before long].

すぐに彼は英語を話せるようになるだろう

③ It was not long before S+V～ 「まもなく～した」

(ex) It was not long before he realized the trick.

=It was not a long time before he realized the trick.

=He realized the trick soon[before long].

まもなく彼はその計略に気付いた

④ It is[was] not until～that S+V… 「～してはじめて…する[した]」

=not until～ + 疑問文の語順 ☞ It is[was] と that が省略されると後半の主節は疑問文と同じ語順になる。

(ex) It is not until we lose our health that we realize its value.

=Not until we lose our health do we realize its value.

健康を失って初めて我々はその価値に気付く

⑤ every time S+V～, 「～するたびに」 = each time S+V～

「～するときはいつも」 = whenever S+V～

= any time S+V～

(ex) Every[Each] time a man came in, another went out.

1人が入ってくるたびに、別の1人が出ていった

Every time I call on you, you're out.

いつ訪ねてもあなたは留守だ

=Whenever[Any time] I call on you, you're out.

Every time she couldn't have her own way, she got angry.

彼女は思い通りにならないときはいつでも腹を立てた

=Whenever[Any time] she couldn't have her own way, she got angry.

⑥ the first[next, last] time S + V~, 「はじめて[次に、最後に]~する時に」

(ex) The first time I visited the town, I met my wife.

はじめてその街を訪れた時、私は妻と出会ったのだ

⑦ by the time S+V~, 「~する頃までには」

(ex) I will have a house of my own by the time I'm fifty.

私が50歳になるまでには自分の家がもてるだろう

會同じ「~までには」でも by は前置詞なので、直後には「名詞(の仲間)」がくる。

(ex) The work will be finished by 8 o'clock.

[名詞]

仕事は8時までには終わるだろう

⑧ This[It] is the first time S have+p.p.~. 「Sが~するのは今回がはじめてだ」

(ex) This is the first time Tom has been upset.

トムが狼狽したのは今回が初めてだ